

49 修堤碑·忠魂碑

吉備西幼稚園内（撫川1243-2）

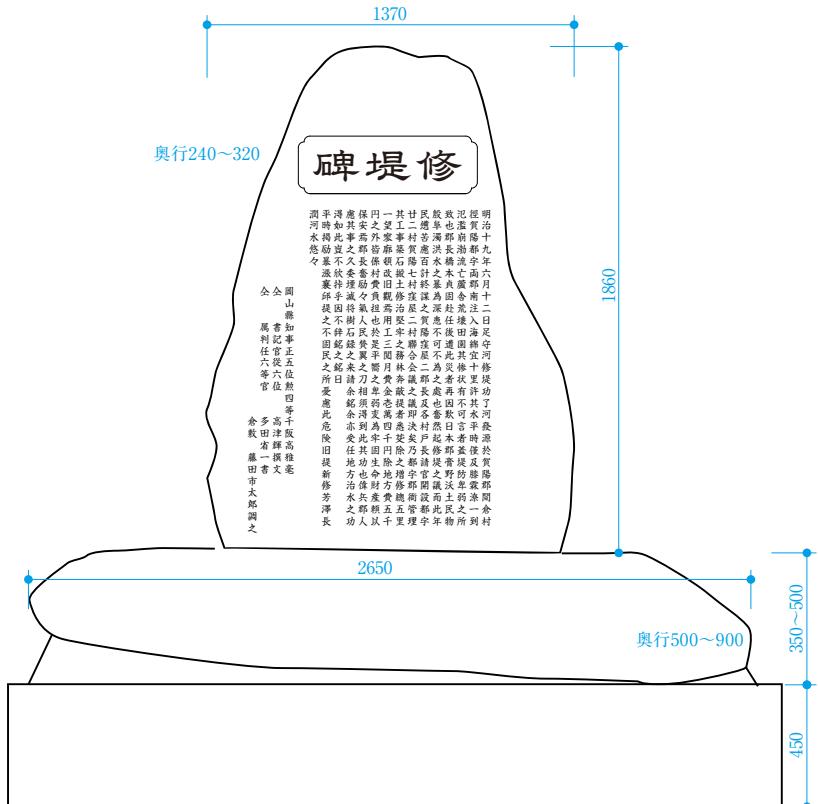


修堤碑 明治19年(1886)

足守川の度重なる大水害と修堤工事の様子を細かく伝えている。

修堤碑表面(東面)原文

明治十九年六月十二日足守河修堤功了河發源於賀陽郡間倉村徑賀陽都字兩郡南注入海綿宜十里許其水平時僅及脰霖潦一到氾濫湧湧流亡蘆舍荒壞田園其慘狀有不可言者蓋堤防卑弱之所致也郡長橋本貞固赴任後遭此災者再因歎曰本郡膏野沃土民物殷阜濁洪水之暴為深患不可不為之處也奮然起修堤之議而此年民憊苦慮百計終謀之賀陽窪屋二郡長及各村戶長請官開設都宇廿二村賀陽七村窪屋二村聯合會議之議即決矣乃都郡衙管理其工事築石搬土修治堅牢之務林莽蔽提者悉芟除之增修總五里一望寥廓頓改旧觀焉用工三閱月費金壹萬四千円除地方費五千円之外皆係村費負担也於是平饑之卑弱變為牢固生命財產賴以保安焉郡長奮効夕氣人民贊翼之刀相須得到此其功也偉矣郡人慮其事之久委堙滅將樹石錄之來請余銘余亦受任地方治水之功得如此豈不欣抃乎因不辭銘之銘曰



修堤碑裏面(西面)原文

都宇郡
窪屋村
賀陽郡
林 庫夫
片山虎右衛門
平松朋治
古谷龜賀治
内田泰造
澤田龍雄
高尾仙作
太田始四郎
難波讓太郎
中西政愛
龍治竹太郎



修堤碑表面訳文 宇垣悟訳(きびのさとNo.107より)

明治十九年六月十一日、足守川の堤防改修工事が終了した。足守川は源を賀陽郡間倉村(足守)から出て流れ、賀陽郡と都宇郡の両郡を経て海へ注ぐ、遠く十里(三九、二七二米)ばかりに亘り、平時は僅かであるが、霖雨となれば水は漲り、水音は高く氾濫して家屋を流し、田園は荒れ、その惨状は言語に絶する。これは堤防の卑弱によるものである。

郡長(都宇)橋本貞固が赴任してその災害に遭れ、深く慨嘆した。本郡は土地肥沃しが農産物は豊富であるが、洪水のために甚だしく損害を蒙っているので、深く憂々何とか改善せねばならぬと思い、足守川堤防改修の議を起こした。

住民は毎年水禍に苦しんでいるので、賀陽、窪屋の郡長と各村の戸長に謀り、当局に要請した。都宇二十二村と賀陽七村、窪屋一村が聯合して開かれ、会議の結果、即決した。

よつて都宇郡役所(應徳寺)にあつたが工事を管理した。

工事には堤防を蔽う雜木を悉く除き、石垣を築き、土砂を運搬し堅牢に改修を終わつた。延長五里(五、六三六米)に及び、一望にして住民の家屋が旧觀に收まつた。この工事は三ヶ月を要し、費用は金壱萬四千円を要した。地方費五千円を除く外は皆関係諸村の負担である。先の卑弱な堤防は堅固となり、住民の生命財産の保安を頼するに至つた。これは郡長の奮励によるものである。

郡の住民はこの事業の久しく埋滅していくことを慮り、記念碑をたててこれを録するに当たつて余に銘を請うた。余は治水の功績の盛大なることに感じ、辞することはできず欣んで應じたのである。

銘にいふとは前書にその状態を詳しく述べ、更に四字を綴つて何句かにわけてめぐりくらべをしたものである。墓地の碑文などによく見られるもので、生前の略歴を記して終わりにその人の功績を称賛した詩文である。

平素は衣服を掲げて浅い瀬を渡る程度であるが、洪水になると邱にまで達する。これは堤防の堅固でないからである。住民は常に災害を憂え、この危険を心配していたが、ここに新しく堤防の修理を終へ、恵みは長く潤い、足守川の流れは遠く続くことであろう。

■修堤碑の移設

昭和43年10月に新大橋架け替えに伴い、足守川東堰堤上にあった修堤碑を現在地に移した。
(写真は昭和37年ごろ)



■岡山歴史のまちしるべ

令和6年3月、岡山市の「岡山歴史散歩」の看板が設置された。(幅350×高さ1430mm)



岡山歴史散歩 ～まちの歴史を知る～

足守川修堤記念碑

明治に改修する前の堤防は崩落であっため、洪水が発生したときは氾濫して豪邸を流し、田園は荒れ、甚大な被害をもたらしました。当時の賀陽郡長が甚大な被害を覺えて足守川修堤改修の議論を引きおこし、窪屋の都宇22村と窪屋7村、窪屋2村の村長等の合意により工事が決定されました。

堤防改修工事では、まず堤防を蔽う樹木を伐採し、延長約20kmにわたりて石垣を築きました。3ヶ月にわたる工事の末、明治19年(1886)6月12日に工事が終了しました。費用は当時の金額で1万4千円を要し、地方費5千円を削いて全て関係諸村の負担で行われました。

郡長はその功が高く語り継がれるよう、足守川修堤記念碑を建てて残しました。

(出典元: 西日本新聞社ギャラリー)

忠魂碑

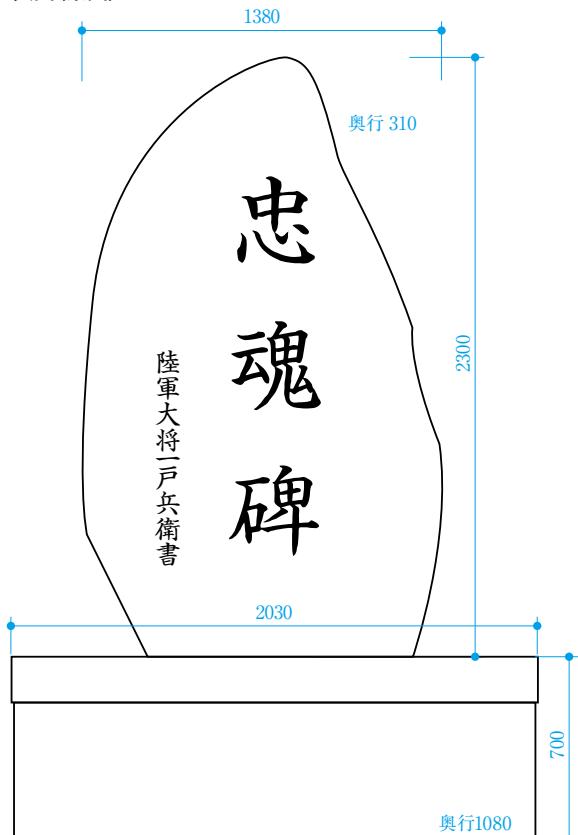


裏面(西面)

この碑は旧撫川町の下撫川、中撫川、大内田、日畠東組の勇士である。一戸兵衛は当時岡山に第十七師団が置かれていた時の師団長を勤めた人である。(きびのさとNo.39より)

昭和4年、当時の撫川尋常高等小学校の校庭に建立された。

表面(東面)



裏面(西面)

昭和4年(1926)

昭和四年四月建立
帝国在郷軍人會撫川町分會發起
大手寺下憲治 胡

裏面(西面)	昭和4年(1926)
昭和四年四月建立 帝国在郷軍人會撫川町分會發起 大手寺下憲治 胡	日清戰役 陸軍砲兵上等兵 齊藤勘四郎 北清事變 陸軍輜重隊輸卒 前田市五郎 日露戰役 陸軍步兵上等兵 坪井竹三郎 陸軍步兵一等卒 板松金次郎 戰病死者芳名
	同

人 話 世 副 分 會 長 分 會 長 袖 岡 経 男
佐 藤 寿 夫 石 原 佐 平 河 內 源 次 平 田 音 市 鈴 山 魏